

平成28年度(2016年度)セタシジミ肥満度モニタリング

井戸本純一・磯田能年

1. 目的

セタシジミの産卵前の肥満度は近年大きく変動しており、北湖一円の漁場で値に差はあるものの、その増減傾向はほぼ一致している。全湖的な現象と考えられるこの変動をより詳細にとらえるため、2010年以降、主要漁場の一つで水深の幅が広い松原漁場において肥満度のモニタリング調査を実施している。

2. 方法

彦根市松原町地先のシジミ漁場に等深線と平行に4本の調査定線を設けた(図1)。ほぼ毎月、調査用定量桁網(採取幅8cm、袋網の目開き10mm)を用いて定線上で採集調査を実施し、成貝について漁場別調査と同じ方法で肥満度を測定した。

3. 結果

各定線における肥満度の推移を図2に示した。2016年の肥満度は、1月にはすべての水深でほぼ3.0%に達しており、その後4.5mでは5月(4.0%)、5mおよび15mでは6月(3.8%、3.5%)に最高値を記録したが、10

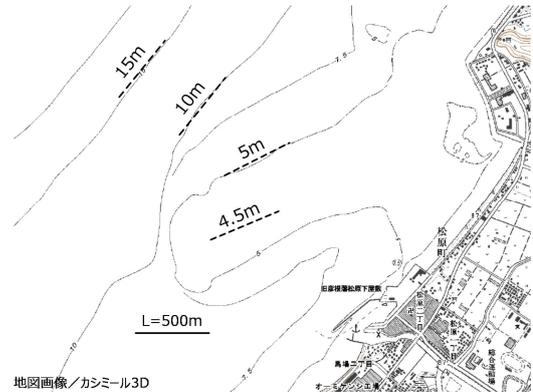


図1 松原漁場の水深別定線(破線)。

mでは3月(3.3%)を最高として6月にかけては徐々に低下した。7月から8月にかけてはいずれの水深でも急激に肥満度が低下し、この間に産卵が行われたと考えられた。9月から10月にかけて肥満度は例年同様さらに低下したが、12月になっても1.8%程度と低く、1月以降も低下傾向がつづいた。

2016年～2017年冬季の肥満度の推移は2011年～2012年の推移と酷似しており、2012年の産卵前肥満度は著しく低かったことから、このあとの推移を注視する必要がある。

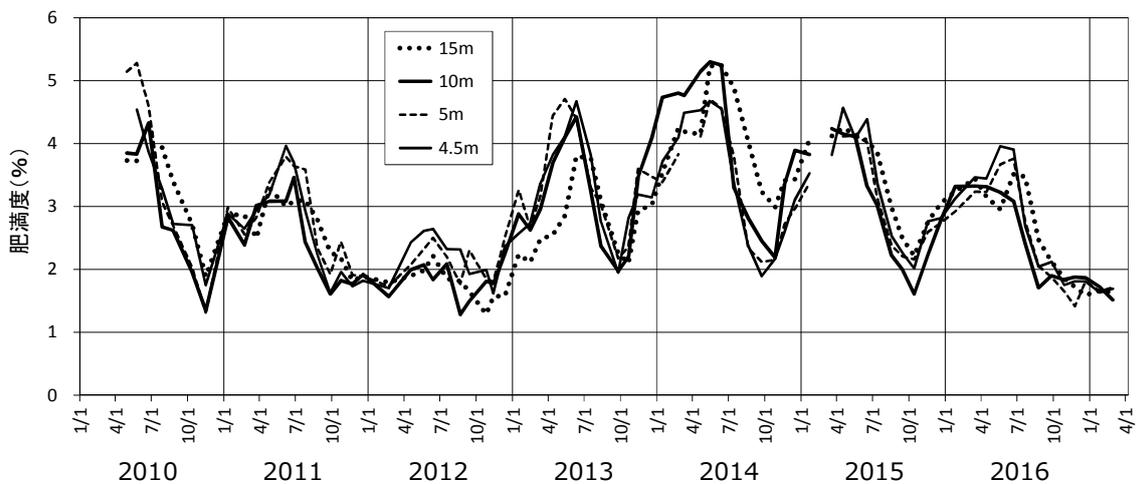


図2 松原漁場の水深別定線におけるセタシジミの肥満度の推移。

肥満度(%)=貝の中身(軟体部)の乾燥重量/貝全体の重量(貝殻および内部の水を含む)×100
本報告は滋賀県資源管理協議会からの調査委託事業の成果の一部である。